

令和5年産麦 中期栽培講習会資料

～生育中・後半のポイント～

令和5年1月16日

J A たかさき

西部農業事務所普及指導課

1 麦踏みの実施

【麦踏みの効果】生育をコントロールし、耐寒性や耐倒伏性を高める

- ・生育に併せて、生育期間中3～4回実施する
- ・土壌が凍結していたり、土壌水分が多い場合は、実施しない
- ・茎立ち期（3月中旬）以降の麦踏みは茎を折ったり、幼穂を傷つけるので避ける

⇒麦踏みの実施は幼穂長2mm以下の時期まで！



本葉3葉期

表1 麦踏み時期

時期	回数	備考
本葉3葉期	1回	麦が小さい頃は軽い麦踏みとする
1～2月	2～3回	暖冬の年、出芽数不足、過繁茂の時は1～2回多く行う

【麦類の凍霜害】

(1) 発生条件

- ①幼穂凍死型：幼穂長20mmの頃に0℃以下の低温に遭遇した場合に発生
- ②不稔型：減数分裂期に-1.5℃に3～4時間又は出穂期に0～2℃の低温に遭遇した場合に発生

(2) 被害後の対策

- ・幼穂凍死は「うどんこ病」、不稔は「赤かび病」の発生を助長するので防除に努める。
- ・幼穂凍死では遅れ穂の発生により、収穫期判断が難しくなるため、刈り遅れないよう注意が必要。



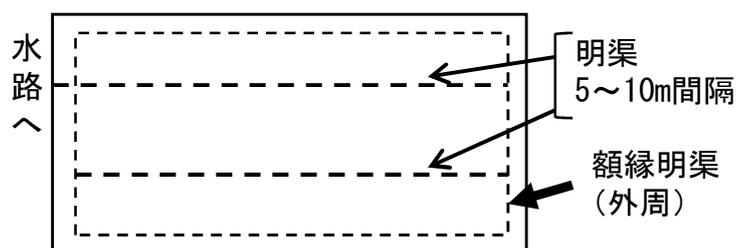
凍死した幼穂

2 排水対策の徹底

幼穂形成期及び成熟期には湿害の影響を受けやすいので、特に排水の悪いほ場では明渠排水溝（深さ30cm程度）の設置を必ず行う。



額縁明渠



明渠排水溝設置

3 適期・適正な雑草防除

土壌処理剤で防除しきれなかった雑草を茎葉処理剤で防除する。

効果的な防除のために、雑草の発生状況（生育ステージ、種類）によって適切な薬剤を選択する。

薬剤の適用葉齢より若いうちの防除を心がけましょう。

表2 茎葉処理剤例

薬剤名	適用雑草	使用時期	総使用回数	使用上の注意
ハーモニーDF	一年生広葉雑草	節間伸長開始期～穂ばらみ期(但し、収穫45日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニー細粒剤Fを使用したほ場では使用しない。 ・スズメノテッポウに有効(ただし、スズメノテッポウ5葉期まで)。
	スズメノテッポウ	は種後～麦2葉期 麦3葉期～節間伸長前		
※近年は抵抗性スズメノテッポウ個体が増加				
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期、小麦：ヤエムグラ2～6節期)(但し、収穫45日前まで)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・低温条件でも比較的速く効果が発現する。 ・ヤエムグラに有効 ・カラスノエンドウには効果が劣る。
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	一年生雑草(イネ科を除く)	生育期(但し、小麦：収穫45日前まで、麦類：収穫90日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・生育期広葉雑草に効果

【昨年問題となった広葉雑草】

(1) ミチヤナギ(タデ科)

- ・種子で繁殖する一年生草本。
- ・春の出芽が多いが、秋まで出芽を続ける。
- ・水稲との二毛作ムギにも生える。
- ・土壌pHや土性など土壌環境への適応性は高い。
- ・ムギ畑では防除が十分でないと、群生、繁茂し雑草害を引き起こすことがある。



(2) コアカザ(ヒユ科)

- ・種子で繁殖する夏生一年生草本。早春に出芽し、5～6月に開花結実する。
- ・麦類の生育が悪い場所や、欠条部分などの早春に土が見えるような場所に多発。



4 追肥の実施

- ・収量とタンパク質含量を確保するため、生育状況を見ながら適期に追肥を行う。
- ・「ゆめかおり」は、開花期の追肥がタンパク質含量向上に有効である。赤かび病との尿素溶液同時散布も有効。
- ・「シュンライ」の畑作は、水田作よりタンパク質含量が高くなりやすいため注意が必要。茎立ち期以降の追肥は行わない。

表3 麦種別追肥量の目安

品種	窒素量	追肥時期
さとのそら シュンライ	2~3 kg/10a	茎立ち期直前 3月上旬ころ
きぬの波	4~6 kg/10a	
ゆめかおり	1回目 2~4 kg/10a	開花期ころ 赤かび病同時 散布も有効
	2回目 2~4 kg/10a または、2%尿素溶液 (溶液量160L/10a)	



小麦の茎立ち期の目安
(農研機構中央農業
総合研究センター)

表4 追肥資材の施用量目安

肥料名	窒素量N：施肥量目安	
硫安 (N21%)	N2：10 kg/10a	N4：20 kg/10a
NK-17 (N17%)	N2：12 kg/10a	N4：24 kg/10a

5 赤かび病防除（必須）

かび毒であるデオキシニバレノールの検出が基準値 [1.0ppm] を超えた場合、自主的な出荷停止となるため、厳重な注意が必要。

(1) 被害の様子

- ・出穂から乳熟期にかけて、穂の一部あるいは全部が褐色になり、穎(えい)の合わせ目に桃色のカビ(分生孢子)が生ずる。

(2) 発生の条件

- ・出穂期前後の気温が高く、降雨が多い場合発生が助長される。
- ・感染後、度々降雨がある場合、病斑周囲への拡大が速い。

(3) 防除

- ・散布適期 **小麦：開花始期～盛期(出穂7～10日後)**

大麦：穂ぞろい期

- ・その後の気温が高く、降雨が続く場合には、7～10日後に追加防除



表5 防除薬剤（例）

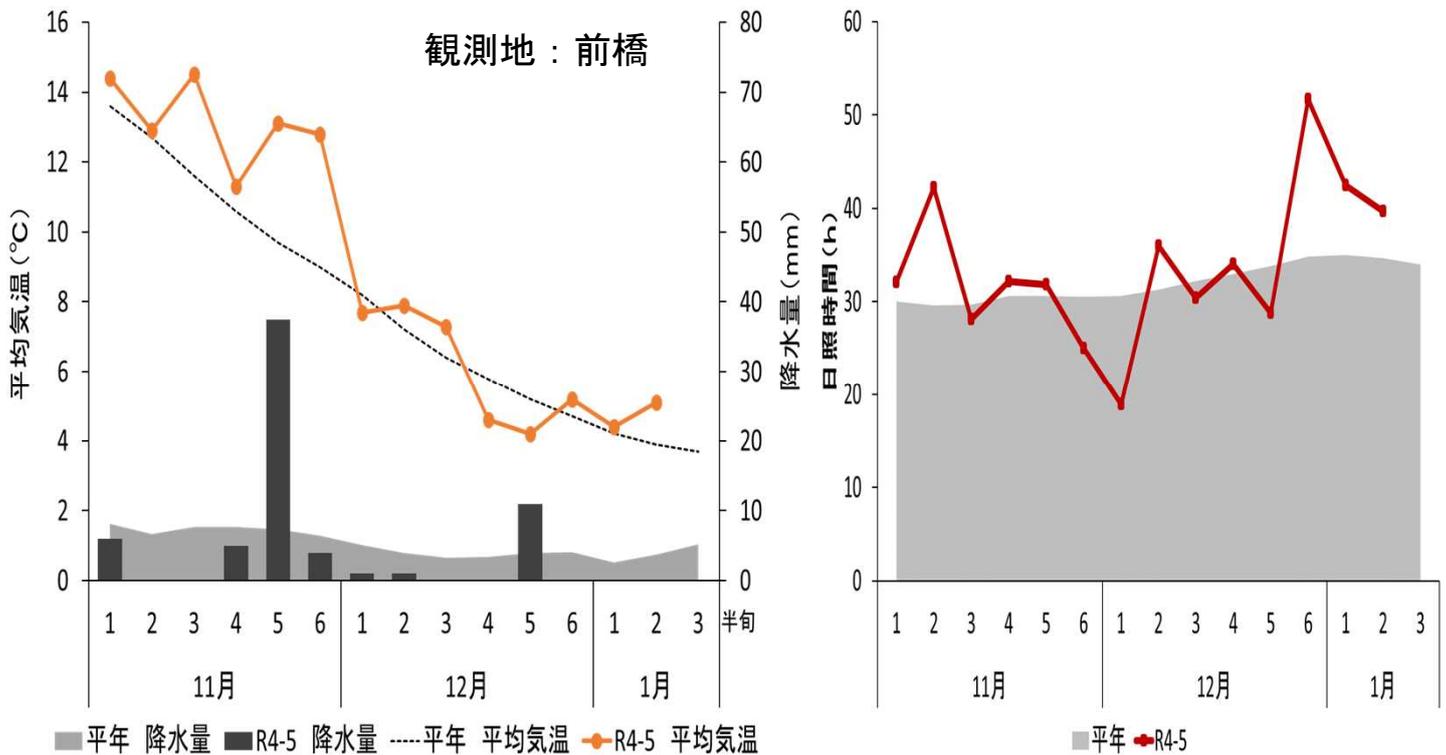
薬剤名	使用回数	使用時期
トップジンM水和剤	小麦2回以内（出穂期以降）	収穫14日前まで
	大麦1回以内（出穂期以降）	収穫30日前まで
ワークアップフロアブル	3回以内	収穫7日前まで

6 収穫適期

刈り遅れによる品質低下を防ぐため、以下を参考に適期収穫に努める。

【収穫適期の目安】

- ・ 穀粒水分25%以下
- ・ 穂首の曲がった穂が50%以上（小麦・大麦）
- ・ 出穂期からの積算温度915度到達日以降（小麦「さとのそら」）
- ◎長期間の降雨と低温が予想される場合、高水分条件（35%まで）での収穫もやむを得ない。
- ◎収穫期の降雨により穂発芽が発生するとアミロ値が低下し、フォーリングナンバーが低下する。それによってグルテンが弱まり、生地にしたときにまとまりにくくなるため、実需からの返品となる可能性がある。
（見た目で発芽していなくても、芽が動いている場合アミロ値が低下する。）



3ヶ月予報 (12/20)	1月	2月	3月
気温	平年並か低い	ほぼ平年並	ほぼ平年並
降水量	平年並か少ない	ほぼ平年並	ほぼ平年並

！農薬飛散に注意！

飛散（ドリフト）した農薬が周辺作物へ付着しないよう、農薬使用時は注意する

- ①風向きに注意し、風の強い時間帯に散布しない。
- ②散布圧力を上げすぎない。ドリフト低減ノズルを使用する。
- ③近隣作物の収穫期に注意する。

- ・ 本資料記載の農薬は、令和5年1月1日現在登録のあるもの。
- ・ 農薬使用時はラベルを確認し、使用時期・使用方法・使用量を遵守。
- ・ 農作業時は安全確認を必ず行い、事故に注意。
- ・ GAPチェックシート、作業日誌に記入し、生産活動の把握・改善を図る。